

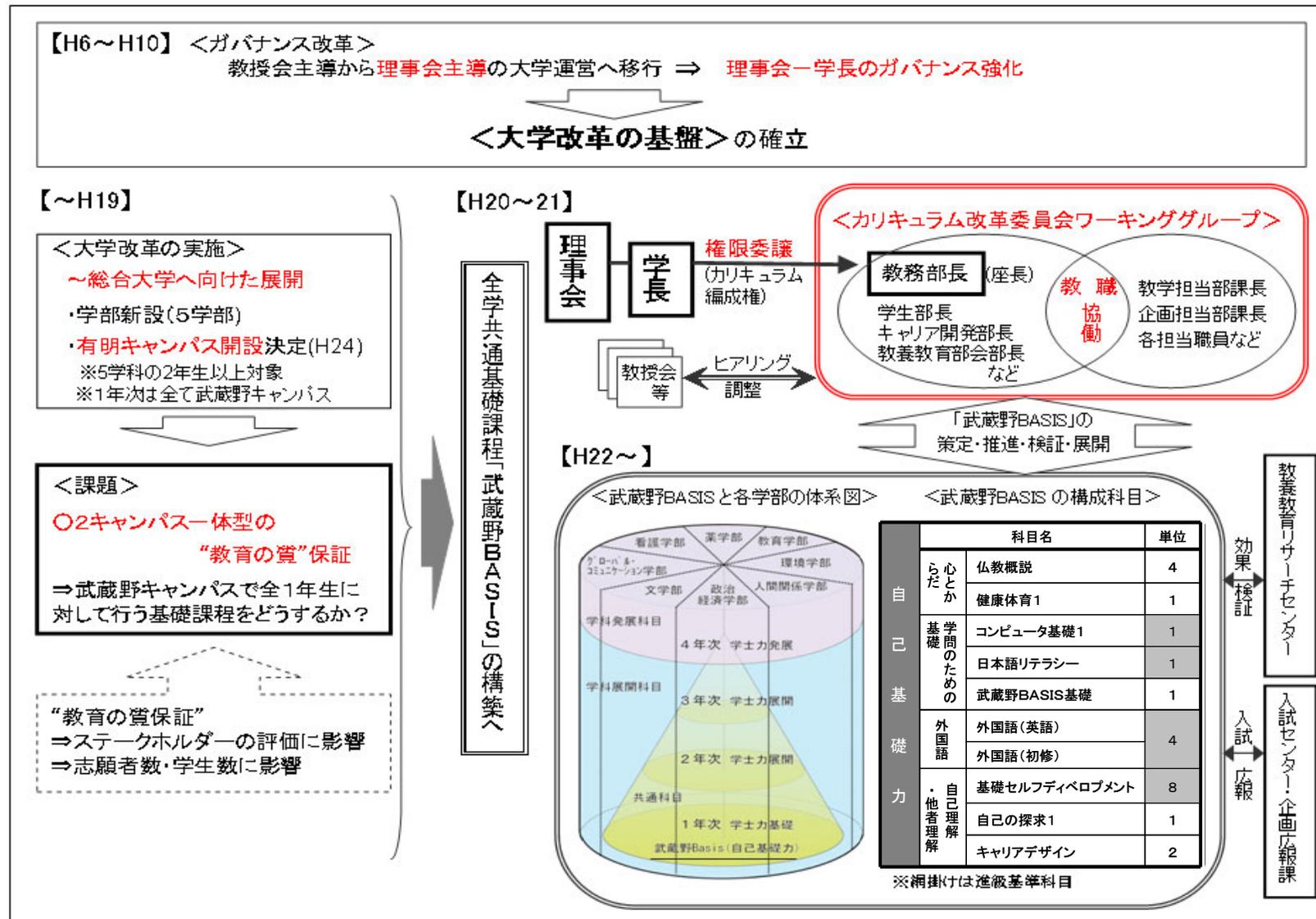
平成23年度未来経営戦略推進経費
(経営基盤強化に貢献する先進的な取り組み)採択事業

学長の権限委譲型ガバナンスによる 大学の社会的評価を高める教育改革

～全学共通基礎課程「武蔵野BASIS」を
中心とした教育の質保証

武蔵野大学

(概念図)



1. 取組みを実施する背景①

(1) ガバナンス改革

～H5年

大学運営の重要事項は**教授会**が実質的に決定

H6年～9年

外部理事を中心とした諮問機関によるガバナンスの見直し

H10年～

- ・**理事会主導**による大学運営へ変革
- ・**理事会－学長**による**ガバナンス強化**

大学改革の基盤確立

1. 取り組みを実施する背景②

(2) 大学改革：総合大学へ向けた展開

【学部の新設】

- ～H9年・・・文学部のみの単科女子大学
- H10年・・・現代社会学部を設置(H20年に政治経済学部に変更)
- H11年・・・人間関係学部を設置
- H15年・・・大学名を「武蔵野女子大学」から「武蔵野大学」へ変更
- H16年・・・薬学部を設置、男女共学化
- H18年・・・看護学部を設置

【新キャンパスの新設】

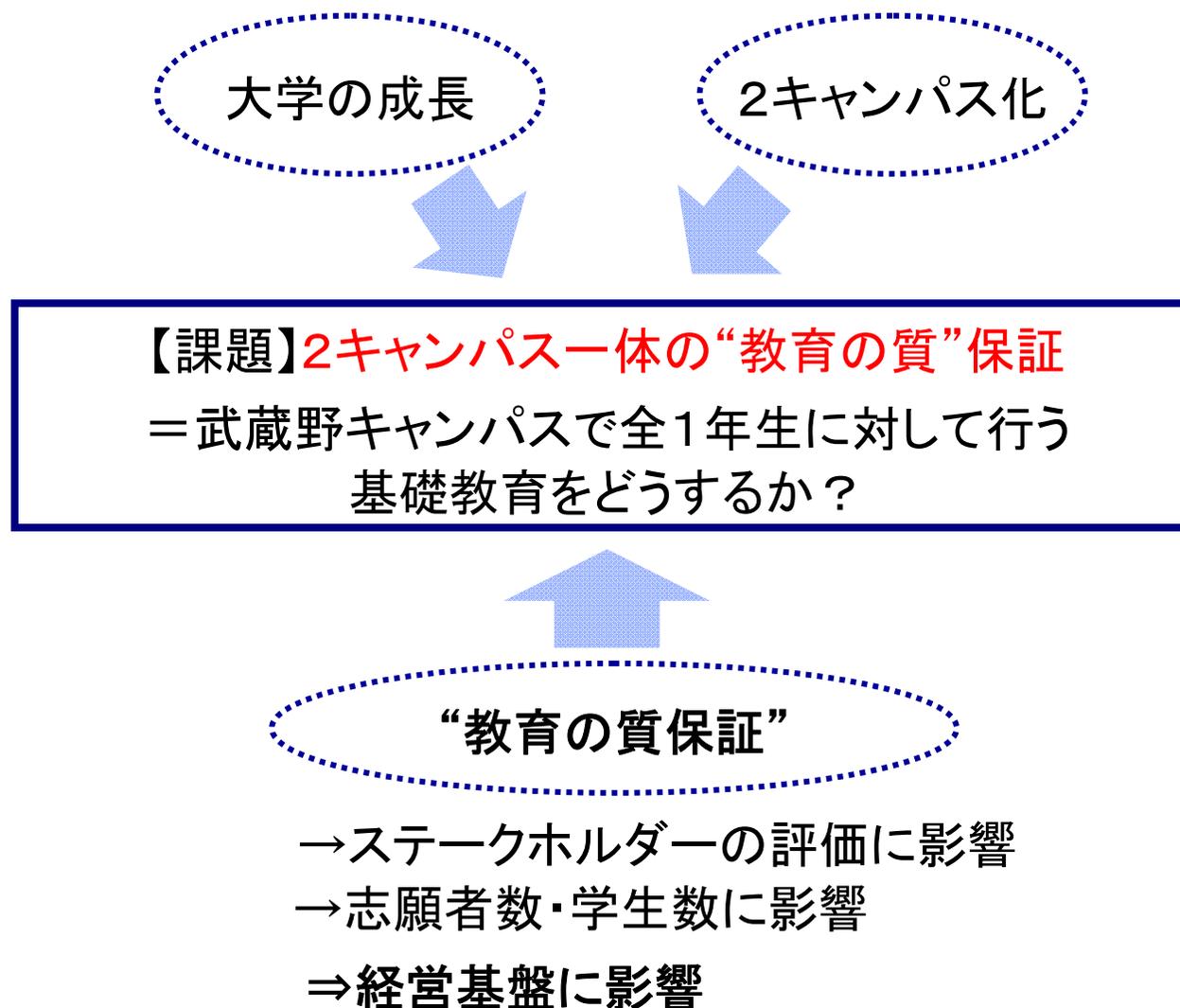
- H19年・・・有明キャンパスのH24年度開設決定

※5学科の2年生以上が対象

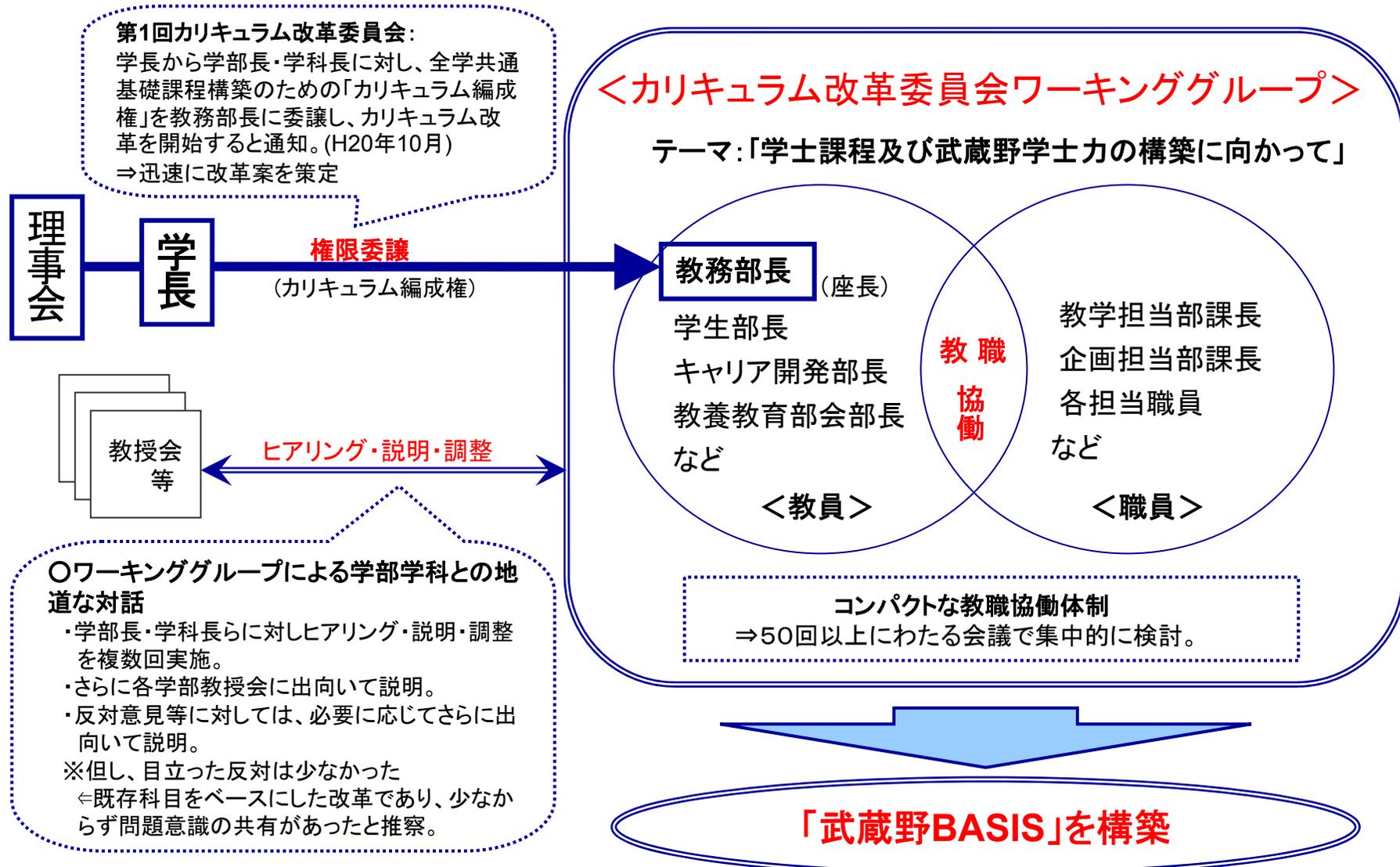
※1年生は全学科が武蔵野キャンパスで履修

1. 取組みを実施する背景—③

(3) 課題



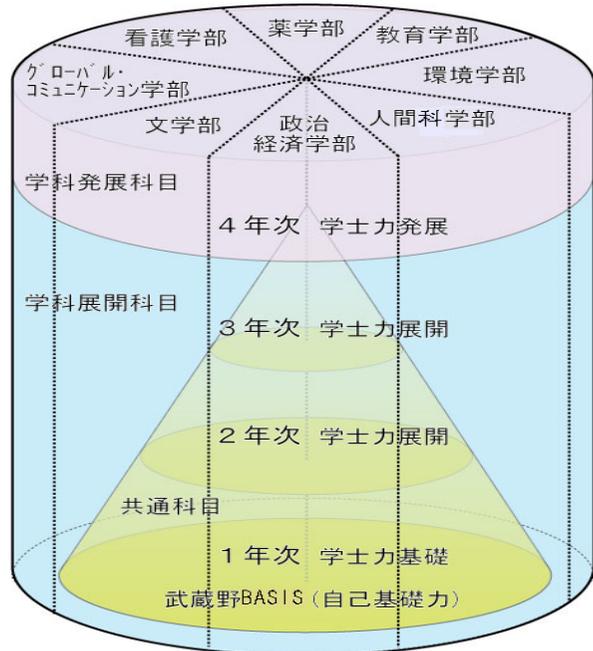
2. 実施体制・これまでの取組・成果①



2. 実施体制・これまでの取組・成果②

「武蔵野BASIS」を構築

＜武蔵野BASIS と各学部の体系図＞



＜武蔵野BASIS の構成科目＞

		科目名	単位
自	心とか	仏教概説	4
		健康体育1	1
己	基礎	コンピュータ基礎1	1
		日本語リテラシー	1
		武蔵野BASIS基礎	1
基	外国語	外国語(英語)	4
		外国語(初修)	
力	自己理解 ・他者理解	基礎セルフディベロップメント	8
		自己の探求1	1
		キャリアデザイン	2

※網掛けは進級基準科目

FD研修

全教員への
認識の共有化

教授会
等

効果
検証

教養教育リサーチセンター

授業評価(理解度・自由記述)、
GPA分布の経年変化などを
指標として分析

入試
広報

入試センター、企画・広報課

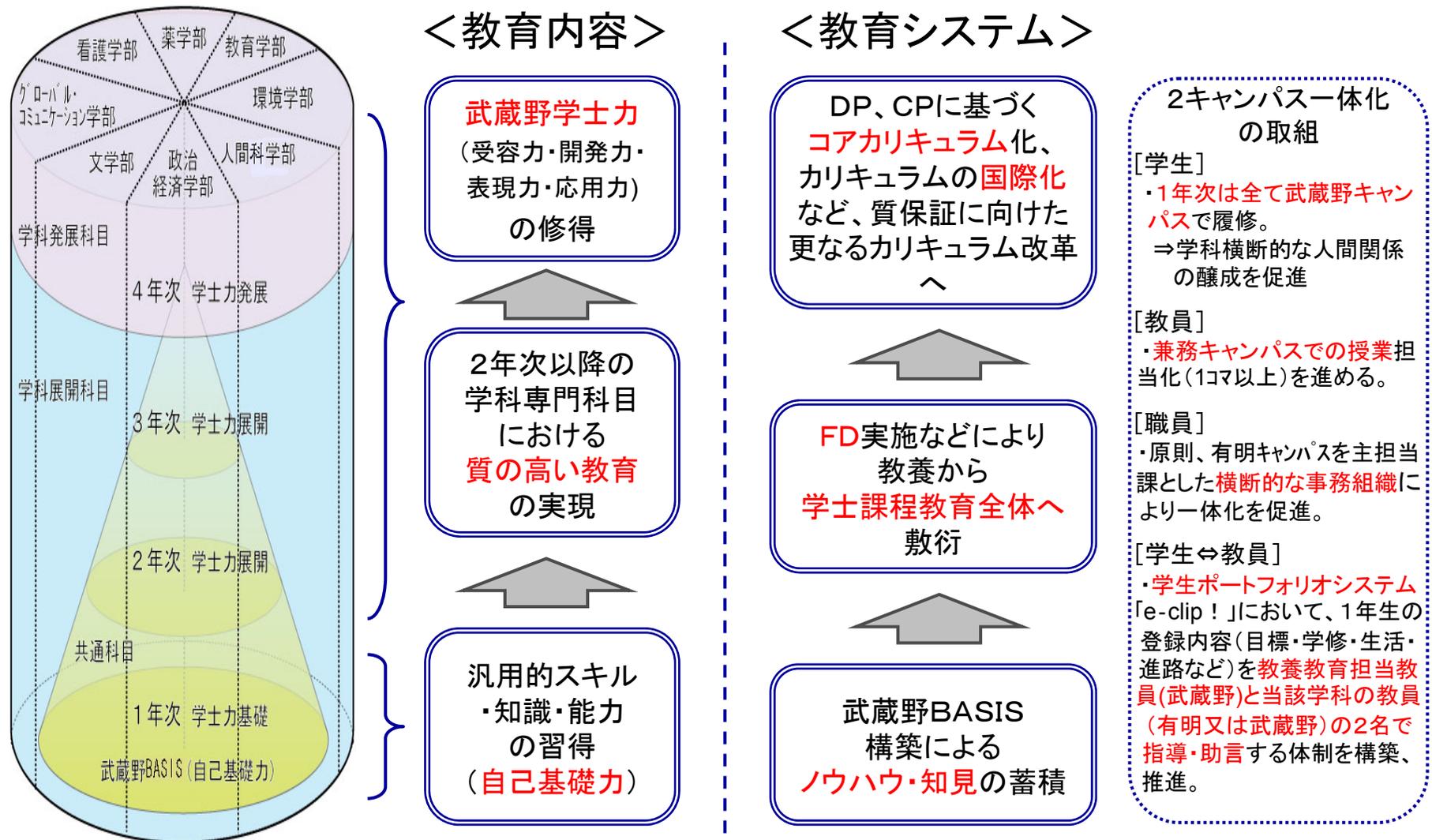
○「武蔵野BASIS」導入後、
志願者が増加
・H22年度前年比7.8%増、
・H23年度前年比5.3%増
(前々年比13.4%増)

○政治経済学部、教育学部、
グローバル・コミュニケーション学部で
**「武蔵野BASIS」が志望理由
の上位(36項目中7位以内)**

＜武蔵野BASISの特徴＞

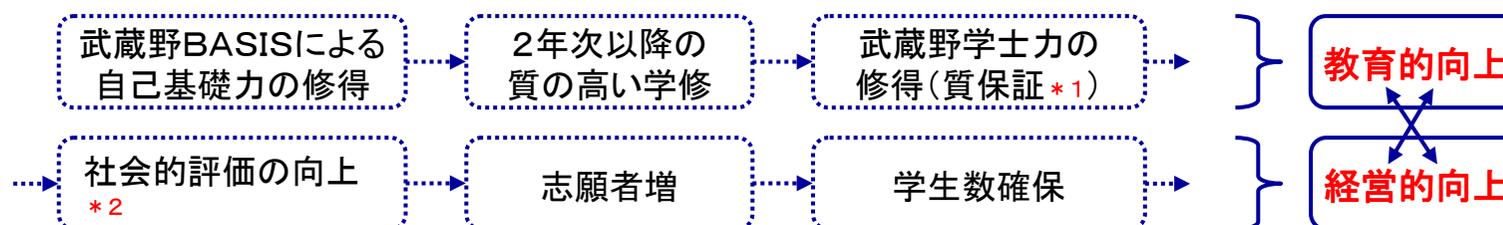
- 学部・学科の枠を超えて同じ基礎課程を学ぶ
- グループワークを通じた議論から多様な個性・思考が交わり合う
- 知への目覚め、コミュニケーション力の育成、自己の探求

3. 今後の取組の展開



4. 取組みにより見込まれる効果

1. 教育と経営のスパイラル的向上



<指標の一例>

*1 質保証の指標……アセスメントによる経年調査、授業評価(理解度・態度等の変化)、GPA分布の経年変化、就職状況など。

*2 社会的評価の指標……志願者数や外部(他大学・行政・マスコミ等)からの視察・取材、各メディアのランキングなど。

2. 教育改革に向けた体制の新たな形を確立

- ①学長から**権限を委譲**されたワーキンググループ
 - ②**教職協働**のプロジェクトとしての**ノウハウの蓄積**
- } 今後の教学改革に活用

3. 教職員の成長

- ①プロジェクトに参加した若手・中堅教職員のモチベーションが向上
 - 資質向上やそれによる経営・教育の各方面への好影響が期待される
 - 更に、メンバーの交代やFD研修により、より多くの教職員の巻き込みを図る

1～3により、本取組は教育の充実に資する取組である

5. 本取組が他大学のモデルとなりうると考える理由

① 教学ガバナンスの新たな形であること

〔学長から権限を委譲された教務部長(教員)を長とするプロジェクトチームが短期間に集中的に検討・調整し、教学改革を成功させた。〕

② 学生募集に効果のある教育改革であること

〔全学共通基礎課程「武蔵野BASIS」の構築という質保証のための教育改革を入試戦略(学生募集)に活用し、志願者数を増やした〕

③ 大綱化以降の教養教育の再構築の成功事例であること

④ 教職協働による教学改革の成功事例であること

6. 他大学で導入する際の留意事項

- ①本取組は、[理事会－学長]のガバナンス体制を改革の基盤としており、この基盤が重要である。
- ②学長による権限委譲は、学長のトップマネジメント力と学長・教務部長相互の強い信頼関係なくしては不可能である。
- ③改革の成功は、リーダー(教務部長)の信念・リーダーシップと、各職務を担ったワーキンググループメンバー(教職員)間の目標の共有によるところが大きい。
- ④カリキュラム改革へ向けた学部学科との調整・ヒアリングは非常にハードであり、粘り強く回数を重ねる必要がある。